



2023年10月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年9月7日

上場会社名 株式会社 トップカルチャー

上場取引所 東

コード番号 7640 URL <https://www.topculture.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 清水 大輔

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長兼管理部長 (氏名) 遠海 武則

TEL 025-232-0008

四半期報告書提出予定日 2023年9月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年10月期第3四半期の連結業績(2022年11月1日～2023年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第3四半期	14,597	9.5	472		519		577	
2022年10月期第3四半期	16,124		109	77.1	95	76.3	43	

(注) 包括利益 2023年10月期第3四半期 561百万円 (%) 2022年10月期第3四半期 30百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年10月期第3四半期	47.79	
2022年10月期第3四半期	3.61	3.60

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年10月期第3四半期	17,199	2,641	15.1	39.06
2022年10月期	18,178	3,401	18.5	99.39

(参考) 自己資本 2023年10月期第3四半期 2,603百万円 2022年10月期 3,364百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年10月期		3.00		3.00	6.00
2023年10月期		3.00			
2023年10月期(予想)				3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年10月期の連結業績予想(2022年11月1日～2023年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,797	10.1	773		926		997		82.52

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年10月期3Q	12,688,000 株	2022年10月期	12,688,000 株
期末自己株式数	2023年10月期3Q	603,480 株	2022年10月期	603,480 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年10月期3Q	12,084,520 株	2022年10月期3Q	12,084,520 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

(A種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年10月期	—	4,000.00	—	4,000.00	8,000.00
2023年10月期	—	4,000.00			
2023年10月期(予想)			—	4,000.00	8,000.00

(B種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年10月期	—	500.00	—	500.00	1,000.00
2023年10月期	—	500.00			
2023年10月期(予想)			—	500.00	1,000.00

(注) 1株当たり配当金は、円単位未満小数第3位まで計算しその小数第3位を四捨五入して表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(重要な後発事象)	9
4. 補足情報	10
(1) 生産、受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、行動制限の緩和を含めた各種政策の効果により、個人消費や雇用情勢等に回復の兆しが見られ、景気は緩やかに持ち直しています。一方で、昨年後半からの物価や光熱費高騰の影響は未だ続いており、また人手不足からくる賃金上昇のコストUPも加わり、店舗を運営する小売業にとっては厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で、当社は中期経営計画の最終年度を迎え同計画に基づき、暮らしの基本である「衣・食・住」に楽しく学んで大いに遊ぶ「楽・学・遊」のコンセプトを加えた日常的エンターテインメントを提供する“蔦屋書店”のリモデル化と収益力の強化を推進しております。しかし、昨年はコロナ禍におけるロシアのウクライナ侵攻にともなうエネルギー資源の高騰と、欧米を中心としたインフレの進展により、国内においても想定以上の光熱費の高騰、諸物価の上昇に見舞われました。当四半期連結累計期間においても光熱費は高止まり、各種備品の値上がりも続いており、店舗運営にともなう経費増加の影響は未だ続いております。こうした中で、4年半ぶりに昨年9月にオープンしました長野県の大型複合店舗「蔦屋書店 佐久平店」は、大手メーカーとのコラボ企画やオリジナル企画による商品展開が奏功しております。また、2023年6月にタリーズコーヒーのフランチャイズ運営を行う株式会社メソッドカイザーを子会社化し、Book&Caféスタイルの新規導入や既存店舗の運営を当社蔦屋書店事業と戦略を合わせて展開することが可能となりました。独自性があり付加価値が高まる商品や企画は、既存店舗にも展開を拡大し店舗の魅力を向上しております。

事業転換の新規事業として100円ショップ「DAISO」の導入を進めており、当四半期連結累計期間において計6店舗を蔦屋書店内にオープンいたしました。DAISO導入による集客力と売上UPに伴う収益性強化が期待できるモデルとなっております。同じく、事業転換の新規事業として株式会社バンダイのカプセルトイブランドであるガシャポンの専門店「ガシャポンバンダイオフィシャルショップ」の導入を進めており、当四半期連結累計期間において9店舗を蔦屋書店内にオープンいたしました。ガシャポンオフィシャルショップの導入により、新規顧客の獲得や幅広いターゲット層の集客により、スピード感のある集客力・売上効果に繋げてまいります。

また収益力の強化に向けて、レンタル事業からの撤退を進める一方で、トップカルチャーで展開するゲーム・リサイクル事業を子会社である株式会社トップブックスのゲーム・トレーディングカード事業へ2022年6月より順次切り替えを行っております。事業切り替えをすることで在庫や品揃えを強化し、連結ベースでの高い収益性の確保を図っております。前期に12店舗の切り替えを行い、当四半期連結累計期間においては12店舗の切り替えが完了いたしました。引き続き、事業切り替えを進めていきます。

書籍事業の収益性改善に向けた委託販売から買切販売への移行、DXの推進による在庫圧縮やAI発注システムの活用による店舗運営の効率化の追求を継続し、運営コストの削減を続けております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高14,597百万円（前年同四半期 90.5%）、営業損失472百万円（前年同四半期 営業利益109百万円）、経常損失519百万円（前年同四半期 経常利益95百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失577百万円（前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純利益43百万円）となりました。

売上・利益の増減要因

売上面につきましては、食品やコスメ、服飾等の企画販売は好調でしたが、書籍部門の売上が伸び悩み、当社グループの主軸である蔦屋書店事業全体の売上高は13,999百万円（前年同期比88.5%）となりました。

利益面につきましては、自動発注システムの構築と徹底した商品・在庫管理による粗利の改善や、セルフレジの利用促進及び店舗オペレーションの更なる見直しを行い、販管費の削減に努めました。一方で売上高の減少に加え、燃料価格が高騰した結果、光熱費も上昇し、営業損失472百万円（前年同四半期 営業利益109百万円）、経常損失519百万円（前年同四半期 経常利益95百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失577百万円（前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純利益43百万円）となりました。

セグメントの状況は、次のとおりです。

① 蔦屋書店事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高13,999百万円（前年同期比88.5%）、セグメント損失は524百万円（前年同四半期 セグメント利益45百万円）となりました。

主力商品の売上高は、書籍8,601百万円（前年同期比89.3%）、特撰雑貨・文具2,430百万円（前年同期比100.0%）、レンタル706百万円（前年同期比67.3%）、ゲーム・リサイクル339百万円（前年同期比54.1%）、賃貸不動産収入455百万円（前年同期比102.5%）、販売用CD 272百万円（前年同期比74.8%）、販売用DVD 239百万円（前年同期比89.6%）となりました。

② ゲーム・トレーディングカード事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高259百万円（前年同期比327.9%）、セグメント利益5百万円（前年同期比142.4%）となりました。

③ スポーツ関連事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高172百万円（前年同期比111.4%）、セグメント利益5百万円（前年同期比77.5%）となりました。

④ 訪問看護事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高85百万円（前年同期比95.4%）、セグメント損失5百万円（前年同四半期 セグメント利益11百万円）となりました。

⑤ 飲食事業

株式会社メソッドカイザーを連結の範囲に含めたことに伴い、「飲食事業」を新たに営むこととなりました。当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高161百万円、セグメント利益6百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

総資産につきましては、前連結会計年度末比978百万円減少し、17,199百万円となりました。これは主に、現金預金が474百万円、商品が183百万円、未収入金が98百万円減少した結果、流動資産が840百万円減少し、また、のれんが144百万円増加した一方で、建物及び構築物が114百万円、投資有価証券が84百万円、敷金及び保証金が82百万円、それぞれ減少した結果、固定資産が137百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末比218百万円減少し、14,557百万円となりました。これは主に、その他の流動負債が373百万円増加した一方で、買掛金が285百万円、未払金が128百万円、一年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金が92百万円、リース債務が59百万円、それぞれ減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末比760百万円減少し、2,641百万円となりました。これは主にその他資本剰余金が198百万円、利益剰余金が577百万円、それぞれ減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年10月期の連結業績予想につきましては、2023年8月17日に公表いたしました「業績予想に関するお知らせ」の数値から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,583,608	1,109,145
売掛金	425,692	388,415
商品	7,311,580	7,128,545
前払費用	263,980	268,763
未収入金	217,078	118,266
その他	70,851	19,192
貸倒引当金	△404	△404
流動資産合計	9,872,388	9,031,923
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,514,210	1,400,132
土地	1,423,759	1,423,310
リース資産(純額)	2,336,764	2,358,598
その他(純額)	89,011	70,212
有形固定資産合計	5,363,745	5,252,254
無形固定資産		
のれん	—	144,678
その他	43,768	42,271
無形固定資産合計	43,768	186,950
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,552,163	2,469,668
その他	345,973	258,820
投資その他の資産合計	2,898,136	2,728,488
固定資産合計	8,305,650	8,167,693
資産合計	18,178,038	17,199,616

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,661,882	2,376,244
短期借入金	4,400,000	4,400,000
1年内返済予定の長期借入金	701,668	659,125
リース債務	354,160	348,566
未払法人税等	61,448	48,220
賞与引当金	36,000	15,000
未払金	398,578	269,718
資産除去債務	—	1,083
その他	222,642	595,649
流動負債合計	8,836,380	8,713,609
固定負債		
長期借入金	2,367,441	2,317,399
リース債務	3,069,392	3,015,726
資産除去債務	194,874	184,537
長期前受収益	968	4,954
退職給付に係る負債	41,751	34,596
役員退職慰労引当金	62,941	62,941
長期末払金	2,065	9,548
長期預り敷金保証金	200,270	214,684
固定負債合計	5,939,706	5,844,387
負債合計	14,776,087	14,557,996
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,007,370	2,007,370
資本剰余金	1,909,428	1,710,921
利益剰余金	△267,465	△844,953
自己株式	△270,027	△270,027
株主資本合計	3,379,305	2,603,309
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△15,223	436
その他の包括利益累計額合計	△15,223	436
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	29,620	29,623
純資産合計	3,401,951	2,641,619
負債純資産合計	18,178,038	17,199,616

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年11月1日 至2022年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年11月1日 至2023年7月31日)
売上高	16,124,664	14,597,521
売上原価	11,044,800	10,021,364
売上総利益	5,079,863	4,576,156
販売費及び一般管理費	4,970,643	5,048,652
営業利益又は営業損失(△)	109,220	△472,495
営業外収益		
受取利息	8,504	7,186
協賛金収入	17,982	4,302
その他	36,695	24,908
営業外収益合計	63,183	36,397
営業外費用		
支払利息	71,101	83,549
その他	5,799	—
営業外費用合計	76,901	83,549
経常利益又は経常損失(△)	95,501	△519,647
特別利益		
固定資産売却益	—	3,458
特別利益合計	—	3,458
特別損失		
減損損失	24,946	5,860
固定資産処分損	—	33,588
特別損失合計	24,946	39,448
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	70,555	△555,636
法人税、住民税及び事業税	25,307	21,848
法人税等合計	25,307	21,848
四半期純利益又は四半期純損失(△)	45,247	△577,485
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,653	3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	43,594	△577,488

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	45,247	△577,485
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14,809	15,660
その他の包括利益合計	△14,809	15,660
四半期包括利益	30,438	△561,824
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	28,785	△561,827
非支配株主に係る四半期包括利益	1,653	3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(重要な後発事象)

第三者割当増資による新株式の発行

当社は2023年8月17日開催の取締役会において、株式会社トーハンを割当先とする第三者割当増資による新株式の発行を次のとおり決議し、2023年9月29日に払込完了する予定です。

- (1) 発行する株式の種類及び数：普通株式 3,526,400株
- (2) 発行価額：1株につき190円
- (3) 発行価額の総額：670,016千円
- (4) 資本組入額：1株につき95円
- (5) 資本組入額の総額：335,008千円
- (6) 募集又は割当方法：第三者割当増資の方法によります。
- (7) 割当先：株式会社トーハン
- (8) 資金の使途：「持続可能な新しい書店を創り出す」という割当先と共有した将来展望のもと収益性の高い、新しい価値が創造できる次世代書店を創り上げ、読書文化の更なる付加価値向上に努めることを目的として、①新規出店に係る費用、②事業転換に係る費用、③システム投資に係る費用を用途として予定しております。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

商品別販売状況

区 分		前第3四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	
		売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)
蔦屋書店事業	書籍	9,633,036	59.7	8,601,805	58.6
	特撰雑貨・文具	2,430,933	15.1	2,430,825	16.6
	レンタル	1,049,197	6.5	706,264	4.8
	賃貸不動産収入	444,784	2.8	455,959	3.1
	ゲーム・リサイクル	626,660	3.9	339,241	2.3
	販売用CD	364,000	2.2	272,316	1.9
	販売用DVD	266,885	1.6	239,179	1.6
	その他	1,000,207	6.2	899,629	6.1
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	54,705	0.4
	計	15,815,706	98.0	13,999,927	95.4
ゲーム・ トレーディング カード事業	外部顧客に対する売上高	79,115	0.5	259,414	1.7
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	79,115	0.5	259,414	1.7
スポーツ関連 事業	外部顧客に対する売上高	140,437	0.9	146,281	1.0
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	14,724	0.1	26,563	0.2
	計	155,162	0.9	172,845	1.2
訪問看護事業	外部顧客に対する売上高	89,403	0.6	85,260	0.6
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	89,403	0.6	85,260	0.6
飲食事業	外部顧客に対する売上高	—	—	161,341	1.1
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	—	—	161,341	1.1
合計		16,139,388	100.0	14,678,790	100.0

(注) 1 セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

2 蔦屋書店事業の「その他」は、図書カード他であります。

3 当第2四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「ゲーム・トレーディングカード事業」について、量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

4 株式会社メソッドカイザーを連結の範囲に含めたことに伴い、「飲食事業」を新たに追加しております。